

鎮静剤の説明・同意書

【鎮静剤とは】

内視鏡検査時には個人差はありますが、ある程度の苦痛を伴います。検査時に鎮静剤を使用すると眠たいような状態となり、比較的楽に検査を受けられます。ただ、鎮静剤の効果には個人差があり、麻酔をしても「意識があった」や「つらかった」ということが時にはあります。当院では、ミダゾラム（睡眠剤）とペチジン塩酸塩（鎮痛剤）を使い分けて使用し、出来るだけ苦痛を少なくするように努めます。

【鎮静剤の方法】

腕の静脈に血管確保のための、軟らかい針を入れます。点滴しながら、鎮静剤を体重等に則して注入します。当クリニックでは必ず自動血圧計やパルスオキシメーターを装着し、検査中のモニタリングを行い、呼吸状態や循環動態の把握と対応を行います。

【鎮静剤の副作用】

注射部位の炎症、静脈炎、血管痛、アレルギー、血圧低下、不整脈、呼吸抑制、低酸素血症、呼吸停止、覚醒遅延（なかなか目が覚めない）、健忘（検査前後の記憶がなくなる）などが起こりえます。副作用を軽減するためにも、検査後にはミダゾラムに対してアネキセート、ペチジン塩酸塩に対してナロキソンを使用します。しかし、偶発症は確率的には低いながらも完全に避けることは不可能とされています。

目が覚めた後も薬の影響が残ることがあり、眠気やふらつきが生じることがあるので、検査後約 1時間はクリニックで休んで頂きます。また当日は、自動車やバイク、自転車などの運転はできません。また、危険を伴う仕事をする事もできません。

【同意書】

私（患者）は麻酔の説明を読み、納得したうえで、内視鏡時に麻酔を受けることを希望します。また、検査中・後に緊急処置を行う必要が生じた場合には適宜処置を受けることに同意します。

年 月 日

患者様 御本人署名

代理人または家族署名



はせがわクリニック

内科 + 消化器内科 + 皮膚科

医師

長谷川俊之